

グループホームかがやき

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		<p>その人らしく暮らし続けることを支えていくため、「慈愛の心、尊厳を守る」という理念をつくっている。</p> <p>認知症高齢者が共同で生活する中で、精神的に安定し健康で自分らしく過ごせるように援助をしている。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		<p>入居者様をお呼びする時、様づけをすることで、後に続く言葉を丁寧にし、尊厳を守る取り組みをしている。</p> <p>入居者様おひとりおひとりを人生の先輩として敬い、その方の歩んでこられた歴史を伺っている。それを元に、その方の得意なことを続けて楽しんでいただくことを中心としたケアに生かしている。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		<p>家族との連絡を密にして、年2回の家族会を開催している。</p> <p>運営推進会議のメンバーに、町内会長さん、副会長さんも招き、会議で理念とそれをどのように実践しているかを報告し、理解していただけるようにしている。</p> <p>地域の行事に参加し、交流を深めることにより生活領域が広がっている。また、日常生活にメリハリが付き楽しみや、役割も見出している。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		<p>隣のアパートの一室で昨年2度続けて火事があったこともあり、隣のアパートの大家さんにはよく声をかけ、日頃からのお付き合いをしている。</p> <p>毎朝の外回りの掃除の時に、出会う近所の方に挨拶をしている。</p> <p>ホームから寄り添いは頻繁にあるが、気軽に近隣の方がホームに気軽に寄るまでにはいたっていない。ホームの行事などに気軽に参加して頂けるように促していきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		<p>利用者全員、ふれあい昼食会など、2カ月に1回参加している。その際、イベントもあり皆様楽しまれている。正月には、隣の保育園をかりて、町内会のもちつき大会へ参加。年に1度の町内会の運動会へ参加をしている。</p>

グループホームかがやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者との交流を繋げる、また町内の役に立つように、町内会の掃除に参加したいので日時を連絡いただくようお願いしている。		毎朝、ご近所の掃除を行っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員、本社担当で構成される職員会議の場で、自己評価及び外部評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる		ご家族、運営推進委員会にも開示し、今後の改善に向けて取り組んでいる。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居状況を始め、行事や外出レクなどの報告をしている。ボランティアさんの募集についてお知らせし紹介を依頼したり、委員さんからのグループホームの運営についての意見をサービス向上のために活かしている。		第6回運営推進委員会より事故報告を行い意見を上げていただいている。(利用者の個人情報保護には、充分注意した範囲である。)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームを運営する上で判断に迷う出来事について、所轄の包括支援センターの職員さんに相談し助言をいただいている。		平成19年4月よりグループホーム協議会を通じ、他のグループホームをご紹介いただき助言をいただいている。これからもグループホームのネットを広げていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について、行政や職能団体の開催する研修会に出席し、その結果を施設の他の職員に伝達している。入居者様おひとりおひとりについての必要性を職員間で話し合っているが、現在必要な方はおられない。		地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について、家族会でパンフレットを渡し説明をしている。今後も必要性が出てくることを考え定期的に説明をしていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者始め全職員が高齢者虐待防止関連法についての研修会で学び、レポートを書いている。研修会は3か月毎に行い、虐待についての意識を継続させる。グループホーム内で虐待が見過ごされることがないように、職員間で注意を払い、防止に努めている。		

グループホームかがやき

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結ぶ時は、契約書と重要事項説明書のポイントをよく説明し、御家族様によく読んでいただいてから、不安や疑問点がないかを尋ね、十分な説明を行い理解・納得をいただいた上で契約している。解約をする際も、契約書及び重要事項説明書に謳っている内容を説明し、納得していただいた上で手続きを進めている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者様や御家族には、事ある毎にお気づきの点、満足いただけているかを伺っている。訪問介護サービス員の巡回を受け入れ、調査員を通じて意見、不満、苦情を表していただけるようにしている。いただいた御意見は場合により「苦情受付報告書」を書き、職員全員に回覧し、業務の改善を全員で取り組んでいる。</p>	<p>玄関にご意見箱を設けている。各ユニットの目立つ場所に、介護保険苦情相談窓口・社会福祉協議会のポスターを掲示している。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>入居者様の暮らしぶりについて担当職員が絵手紙を書き、おひとりにつき月2回郵送している。受診結果や健康状態に変化があった時には速やかに御家族様にお知らせしている。金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>毎月、かがやき新聞を作成し、。日常生活や、外出した先の写真に文章を添えて郵送している。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情処理窓口がわかるように担当者の写真と名前いりの掲示物をフロアに掲示している。ご家族から苦情などがあった場合は、「苦情受付報告書」を書き、職員全員に回覧し、業務の改善を全員で取り組んでいる。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議で運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日頃から機会がある度に管理者は職員に意見を求めそれを反映させている。他、ユニットごとに毎月1回フロア会議を開催し、意見を言える場面作りを設けている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者や家族の状況の変化により、いただいたご要望に柔軟な対応をするよう、日中の時間帯は3人から4人の職員を確保するよう勤務の調整に努めている。また、職員の急な欠勤には、振り替え休日出勤・残業など行い利用者にご迷惑がかからないように努めている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>異動、離職等に至る場合、利用者へのダメージを防ぐため引継ぎ期間を1カ月もち、新たな馴染みの関係が図れるまで配慮していきたい。</p>

グループホームかがやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。定年制を65歳としているが、能力・また、継続性が出来ると判断されれば勤務継続が可能である。事業所で働く職員についても、各人の能力を發揮し、様々な研修に参加させ、自己へのレベルアップをしている。</p>		<p>他のグループホームなどに体験学習とさせ、視野を広げた研修制度を設けたいと考えている。</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>法人代表者及び管理者は、毎週土曜日「慈愛の心・尊厳を守る」の実践について話合われている。全職員がその意味を十分理解し、理念にそった対応ができているか、土曜日に行われている話合いを伝達し常に確認している。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内では新人研修および現任者研修が頻繁に行われている。認知症介護実務者研修を受講する職員に対し費用に付いては半分会社が負担し職員の負担を軽減している。</p>		<p>行政や職能団体による外部の研修を受けることも推進していきたい。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。(コムスンと提携を結んでいる。)</p>		<p>現実的に活発な活動にまでは及んでいないので具体的な取り組みを進めていきたい。平成19年5月より、同じグループ内での体験学習が開催される予定である。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>本社内、悩み窓口担当者が設けられている。また、毎月、職員の誕生日会を開催し職員同士の交流の場面作りをしている。</p>		<p>ホーム内でも定期的にストレスを軽減できる場面作りをしたいと考えている。</p>

グループホームかがやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、年1回の昇給や年2回の賞与などに反映し、各自が向上心を持って働けるように努めている。毎日の日報に目を通し運営者自ら励ましのコメントを記入している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでにご本人が困っていること、不安なこと、求めていること等をご本人自身、またご家族からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでにご家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている。いつでも相談にのれるように管理者の携帯番号を必要時知らせている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、ご本人とご家族がその時点でまず必要としている支援を見極めすぐ対応するようにしている。他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、一日体験入居などしていただき場の雰囲気に徐々に馴染めるようご家族等と相談しながら工夫している。また他の利用者との交流に職員が間に入りフォローすることに努める。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、ご本人を介護される一方の立場におかず、料理がお得意な方は教わりながら一緒に行い、物知りな方からはお知恵を拝借し、読書が趣味な方からは内容をお話していただき、嬉しい時・悲しい時・ご機嫌が悪い時など同じ立場となりいつも受容の気持ちで一緒に過ごしながら家族として支えあう関係を築いている。		

グループホームかがやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	様々な理由があり至った経緯を十分理解し、「ここに居れば安心だ」とご家族に思っていたらけるよう支援しつつ、グループホームの本質を理解していただき、一緒にご本人を支えて支援していくように努めている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	センター方式のアセスメントを行うことで、これまでのご本人とご家族との関係の理解に努め、グループホームの職員と言う立場でできることを具体的に考え、ご本人とご家族がより良い関係が築いていけるように支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所を具体的にお伺いし、それぞれとの関係が途切れないよう、支援に努めている。馴染みのスーパー、仲の良いご近所さんの面会、懐かしい場所、親戚の家への訪問など。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように定期的なレクリエーションや誕生日会、行事など職員が間に入り交流を図れるようしている。ティータイムの楽しい談話の時間を大切にし、食事の準備にも皆が係わるようにしている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院に至り、契約が終了してしまっただ方など、利用者とお見舞にくなど交流が図られている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の気付きをセンター方式のアセスメントを使う事で、より具体的に一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握し、記録をしている。本人が「私らしく、安らかに、生き活きと」暮らしてゆけるように本人を中心として検討している。		

グループホームかがやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め、センター方式に記録し、個別ケアに生かせるようにしている。		畑仕事が趣味で生き甲斐だった利用者がいるが、ホームに庭がない為、近くに畑が借りれないか、また簡単な園芸が出来ないか検討中である。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の気付きをセンター方式に記入。介護日誌にも一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を詳しく記入し職員全員が把握している。		平成19年4月より介護日誌の様式が変更された。コンパクトになっているのに対し内容が薄くならないように記録の書き方を十分注意し指導している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を利用し、ご本人が「私らしく、安らかに、生き生きと」暮らしてゆけるケアプランをご本人中心とした、ご家族・ケア関係者・町の関係者で介護計画を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別のケア記録に記入している。センター方式に記入した情報を家族や職員全員で共有しながらケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			

グループホームかがやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練は年2回小倉北消防から訓練を受けている。ボランティアは、月2回お茶会が開催されている。		運営推進委員会を通しボランティアで、お花・書道・囲碁・将棋倶楽部などを紹介していただけないか促している。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、利用者・ご家族からの意向はない。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2カ月1回、運営推進委員会へ来られている。権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、現在のところ必要性がない。必要性が発生時に協働していきたい。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族等の希望を大切に、ホームに訪問診療として月2回来られる林内科を多くの利用者が利用している。夜間帯にも電話連絡ができ相談をしている。緊急時には、小文字病院を受診している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	診療内科(リボンリボン)を受診している。定期的に病院側から認知症に付いての勉強会が開催され参加している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問診療の看護職員と日常の健康管理、医療活用の助言をいただいている。		

グループホームかがやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時利用者が不安にならぬように努め、退院時にはカンファレンスを行い、情報交換を確実にしホーム側は万全な受け入れ態勢で利用者が安全、安心でいられるように迎えている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化、終末期の利用者は現在いない。</p>		<p>今後起こりえるとされる、重度化・終末期のあり方に付いて全職員は把握することが必要である。</p>
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化、終末期の利用者は現在いない。</p>		<p>今後の変化に備えて検討や対策、準備が必要である。</p>
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ご本人がグループホームから別の居所へ移り住む際、情報提供を行い・どんなに些細な情報でも提供するように努めている。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>おひとりおひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いについては管理者や職員相互に注意しあい、常に「慈愛の心・尊厳を守る」を実行している。誇りやプライバシーを大切にするようにしている。</p>		

グループホームかがやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人の自己決定を尊重している。自分の思いをなかなか伝えることが困難な方でも同じ立場になり、共感できるようにしている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活を大切に支援している。自分が過ごしてきた生活をできるだけ近い状態にしている。センター方式を活用することによってなじみの暮らしの継続(環境・関係・生活)ができています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その方らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容はご本人の望む店に同行し、あるいはご家族に付き添っていただいている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、お一人おひとりの好みを事前に伺い、準備や食事、片付けできる力をお持ちの方には声をかけ、入居者様と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。身体的負担にならぬように長時間立位が困難な方は、イスに腰掛けていただきながら行っている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ティータイム時には各入居者様が望む飲み物を伺い、おやつも選んでいただいている。お酒をご希望の方には、晩酌や行事食の時など好みのものをお一人おひとりの状況に合わせて楽しんでいただけるよう用意している。		ホーム内は禁煙であるため、非常口から外に出て喫煙していただくことになる。夜間は、遠慮していただくことになる。(現在喫煙者は、いないが今後の課題となる。)
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツを使用しておられる方に対しては、時間を見て、排泄時にオムツを持って行き交換していただくよう声かけを行っている。また、トイレの時間をお一人おひとり把握しておき、トイレの間隔が空いている方に対しては、声をかけ誘導している。		

グループホームかがやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	前日に入浴したい時間を知らせに来られる方には、その時間にスムーズに入っていただけるよう対応している。また、入居者様ひとりひとりに声かけを行い、入浴の希望を確認し、希望の時刻に入浴していただいている。入浴の間隔を注意し入浴を拒む利用者には、上手く声かけを行い気持ちよく入浴していただくように衛生面に注意している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない入居者様に対しては、話し相手になったり、空腹のときは甘いものなど召し上がって頂いたり、安眠できるようにケアをしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔、魚市場で働いておられた方に対しては、一匹魚を買ってきて捌いて頂き、食事にお出ししている。また、お茶やお花をされていた方に対しては、お茶会を開いたり、花を生けていただいている。また、入居者様と一緒に食事の準備をしたり後片付けをしたりしている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様ひとりひとりが、多額ではないが金銭を所持するようにしている。一緒にスーパーや本屋などに行き、そのお金で召し上がりたい物やお菓子、本、必要な物などを職員が見守りする中で買ってもらっている。		家族の中には、小額でも渡さないでほしいと申し出がまっている。本人の意向と違うので、話し合いが必要である。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	宝くじを買いに行きたい、選挙に行きたい、お菓子を買に行きたい、本を買いに行きたいなど希望に沿って支援している。また、散歩に行きたいと仰る方も多いので、天気の良い日に声かけし、お誘いしている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	近くに住んでおられるご家族と連絡を取り合い、都合の良い日時に入居者様を御家族宅まで送迎し、楽しいひと時を過ごして頂いている。、あ。ご家族と一緒に外出して食事をされる機会を作っている。大型デパートなど個別支援にて希望に沿った外出を支援している。毎月外出レクリエーション・外食レクリエーションを行ない楽しまれている。		平成19年10月に小旅行を計画中である。実行する為に念密な計画である。

グループホームかがやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「電話したい」との申し出があった時には、職員が電話をかけ、入居者様ご本人に電話に出て頂き、お話をし頂く。また、絵葉書なども御家族へ郵送している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族、ご友人が来訪された際は、お茶をお出しし、入居者様の居室にて椅子を配置し、ゆっくりとお話ができるように対応している。また、フロアにて、将棋やカラオケをして、一緒に楽しい時間を過ごして頂けるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、職員全員で勉強会を開き、知識を深めている。開所以来、現在まで身体拘束を実施した例はない。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいて居室に鍵は無く、玄関は一定時間開放している。エレベーターの入り口がフロアからは見えにくい位置にあるため、エレベーター前に立つとチャイムが鳴るようにして、入居者様がエレベーターに乗ろうとされていることに気づけるようにしている。		非常階段から出て行こうとされる入居間もない入居者様もおられるため、階段ドアに近づいた時点でチャイムが鳴り職員が気づけるようにしている。しかし、幹線道路がすぐ傍を通過していること、近隣に住宅以外の建物も多いことから御家族が玄関の開放は危険だと心配されている現状がある。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室に鍵はなく、御本人以外も出入りできるようになっているが、御本人以外が出入りする時は、ロックや声かけをしている。また、フロアからおひとりおひとりの居室ドアが見えるので、居室から出て来られた場合は、利用者様の所在や見守りを行っている。また、居室におられる間も御様子を確認し、介護日誌に記録している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみなど危険だと思われる物は事務所で預かっており、必要時にお渡ししている。危険なものとの区別がつく方はご自分で所持され、必要時使用されている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のために、定期的に職員同士で話し合い、情報を共有し、おひとりおひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。また、事故が起こった際は、すぐに話し合いを持ち、事実関係を確認して原因を突き止め、同じ事故を起こさないようにサービス内容を確認している。必要であれば、ケアプランを修正し、ご家族の承認を得て実行している。		

グループホームかがやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	転倒、窒息、意識障害など入居者様の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応できるよう訓練を定期的に行っている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や災害時に職員が適切な判断、処置、誘導ができ、入居者様が非難できる方法を身につけられるように定期的に避難訓練を行っている。		非難訓練は2カ月1回行われているが、地域の方も参加はされていないため、これから促していきたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者様の状態と起こり得るリスクについては、ケアプラン作成時点でご家族と確認合っている。また、状態変化があればその都度ご家族に報告している。また、来訪時に話し合いの場を持ち、その方に合ったより良い方法を話し合い実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	ひとりひとりの体調の変化、異変に対しては、常に観察を行っている。異変に気づいた時は、報告し、情報を共有し、病院受診や主治医への連絡をして適切な対応ができるようにしている。ご家族の連絡は密に行っている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、おひとりおひとりの入居者様の薬事情報をファイルで綴じ、いつでも確認できるよう事務所内においている。また、各入居者様の薬箱に服薬背う名所を貼付し、職員ひとりひとりが常に把握している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事に対しては、食物繊維を多く含んだ料理を提供している。また、腹部マッサージや体操などを取り入れ、便秘予防に努めている。		

グループホームかがやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声かけ、見守りなど、おひとりおひとりに応じた口腔ケアを行っている。また、月に一回歯科定期健診を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食召し上がった主食、副食それぞれの分量を確認し記録している。必要な水分量が確保できるよう、毎食、午前・午後のおやつ毎、また、入浴後の補水として飲料を提供し、摂取量の確認をしている。また、食事内容や飲料については、おひとりおひとりの好みを重視し、サービスしている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についての勉強会を定期的に行い、職員全員が出席している。また、感染症マニュアルが事務所にあり、必要時いつでも読めるようにしている。感染症委員会があり、委員はそれぞれの感染症の流行についての情報を取り入れ、早めに感染予防対策が取れるようにしている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の予防のために、台所・調理用具等は洗剤で洗ってよくゆすいだ後、食器乾燥機にて高温で45分の消毒を行っている。台所アルコール消毒を1日に3回している。また、毎日必要なだけ買物をする事で、新鮮で安全な食材を使用できるようにしている。定期的に冷蔵庫や食品庫の掃除を行い、食品を清潔に保てるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲に花壇を作り、花が絶えないようにしている。また、毎朝玄関と建物周囲の外回り掃除をすることで、清潔感を維持し、入居者様やご家族、近隣の方にとって親しみやすく、安心して出入りができるようにしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮している。窓際に鉢植え、テーブルに花を飾り季節感を感じていただけるようにしている。また、新聞を自由に読んでいただけるようにし、ソファにクッションを置くなど居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

グループホームかがやき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでは気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるようにしている。楽しい談話、将棋・囲碁・オセロ・トランプなど皆で囲んだ姿がよく見られる。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人やご家族と相談しながら、自分が過ごして使い慣れた物を持ってきている。そのことによって安心と居心地が良い居室となっている。また、おわん・お箸なども使い慣れているものを使用している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝は、全ての窓を開けて換気し、必要に応じて温度調節をしている。外気温と大きな差がないよう配慮し、入居者様の状況に応じてこまめに行っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はやや狭いが、杖使用の方も多く、手すりを有効に使いやすい構造となっている。お一人おひとりの身体機能に応じて傍で見守りをしたり、離れた場所からの見守りをしたりと安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各入居者様の居室ドアには、それぞれ特徴のある印をつけることでわかりやすくしている。また、トイレのドアにもわかりやすい表示をしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダは無い。非常階段に若干スペースがあり洗濯物干し場となっている。		

グループホームかがやき

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホームかがやき

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者様の1日1日の過ごし方について、その方それぞれにあった生活ができるように、サービスを提供している。例えば、昔、若い頃魚市場で働いておられた方は、魚を捌く特技をお持ちなので、まるごと一匹の魚を買ってきて、その方に魚を捌いていただいている。そして、食事にお出しし、その方が捌かれたと皆様に説明をするととても喜ばれます。また、昔、お茶やお花をなさっていた方もおられるので、お茶会を開いたり、お花を生けていただいたりしている。また、毎日の生活の中で、掃除機かけ、洗濯干し、食事準備、後片付け、皿洗いなど役割を持って頂き、その方の個性を引き出すことで、やりがいを感じながら毎日楽しく過ごしていただけるようにサービスしている。

ご家族との連絡を密にしている。例えば、体調の変化があった場合、受診の相談が必要な時だけでなくご家族に電話し、日々の変化を把握していただけるようにしている。また、絵手紙をお一人の家族につき、月に2回郵送し、ご本人の毎日の過ごし方や行事の際にどんな風楽しんでいただけたかなどお伝えしている。

職員同士の連携と情報の共有を重視している。ケアプラン作成など必要な時点でのケアカンファレンスは勿論、転倒や事故などが起きてしまった際には、その場で勤務している職員と必要に応じて公休の職員も呼び出し、対応策を話し合いどの職員も同じサービスが共通して行えるようにしている。